

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790300077		
法人名	有限会社 エイム		
事業所名	ホームすみれ		
所在地	香川県坂出市川津町字東山田5638番15		
自己評価作成日	平成23年8月1日	評価結果市町受理日	平成22年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790300077&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790300077&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>生活そのものをリハビリと考え、炊事・洗濯など、できることは一緒にしていただいている。また、外出支援(買い物、ドライブ等)も積極的に行っている。少しでも利用者のADL(日常生活動作)を活かせるよう、職員は補助側の立場として手を出し過ぎないように、ゆとり介護を心がけている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>「利用者一人ひとりを丁寧に支援したい」との職員の思いが、ホーム内随所に見られる「ホームすみれ」は、1ユニットで、ゆったりとした空間の中で、利用者の方も穏やかにのんびりと日々を過ごされる様子がうかがえた。また、ホームに入居された後も利用者の方への支援は、家族の協力を得てなりえるものとの考えで、家族とコミュニケーションを図り、信頼関係を築けていることがうかがえた。書類面の整備について、ヒヤリハットや事故報告の内容を評価検討し、家族への説明と確認のサインをいただく等、丁寧な対応が見られる。これからも、利用者を主役とし、職員のさりげないサポートによって、利用者一人ひとりが、より一層力を発揮し、輝き続けられるような支援の継続が望まれる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い、より身近な理念に作り変えて実践している。	「安心」＝「笑顔」個々を大切にするという理念を基に、カンファレンス等で実践について、話し合う機会を設けている。より身近に感じ、理解しやすい内容となるよう検討を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は広がっていない。	地区の自治会長の声かけがあり、小学校での夏まつりや地域の運動会、苧蒲まつり等の地域行事には参加しているが、身近な付き合いの地域交流には十分に至っていない現状がある。	地区の行事参加等を継続しながら、次は小さい地区単位で地域の方と付き合えるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所が地域貢献するまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を作成していなかったため、作成するようにしている。	2か月に1回運営推進会議を開催し、事業所の現状等について報告を行い、理解が広がるよう取り組んでいるが、推進会議を活用し、サービスの向上につながるまでの取り組みまでには至っていない。	運営推進会議の議題として、事業所が今後取り組んでいきたい内容を検討し、それに必要な担当者や専門家等が参加できる体制をつくるなど、会議の幅が広がる工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に連絡を取り、ホーム内の近況報告を行っており、あらゆる指導をいただいている。	市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行ったり、月1回、介護相談員の受け入れ、第三者の立場から利用者の方々の声がかかえるよう工夫している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前回、指摘されていた玄関の施錠については、安全面を最優先し、現在も施錠している。	身体拘束についての禁止事項は、カンファレンス等で周知している。施錠することが身体拘束になることも、職員は理解しており、事業所の現状について、家族にも説明し同意を得ている。利用者の方が外に出たい時は、一緒に出かけるようにしている。	施錠の件を含めて、身体拘束について常に職員間で話し合う体制を継続し、時間帯や職員の体制等の工夫で少しでも改善できるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、高齢者に対する虐待防止について話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいないが、職員間で話し合い、理解を深めていこうと努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には施設の方針、利用内容を説明し、利用者がホームでの生活に合うか、十分に話し合いをし、理解、納得を得られたうえで入居されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から小さなことでも聞いていける間柄を重視し、希望や願いを聞いている。家族の面会時には、職員との会話が持てるよう心がけている。	日常の小さな出来事も連絡を取り、話しができる間柄を心がけている。月1回、家族へ手紙にて様子を伝えると共に、行事や生活の様子を写した写真も同封するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時、カンファレンスを開き、各職員からの意見や提案を聞くようにしている。また、気付いたことは、その都度、連絡、報告し、話し合いを行っている。	月1回カンファレンスを開催し、利用者のケア内容や事業所の運営について、話し合う機会を設けている。管理者、代表者ともにケアの実践に携わっており、職員からの意見や提案等も把握しやすい状況にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務態度、意欲、勤続年数等を考慮しつつ、随時昇給も行っている。また、残業が発生しないような環境づくりにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた指導をし、通常の業務の中で、配置やシフトの組み合わせによって、他職員から学べるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市によるグループホーム連絡会を通じ、今後も、積極的に相互訪問や意見交換等ができるように取り組んでいる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの状態により違うが、何を望み、何を欲求しているのかを、本人からできるだけ多くの情報を聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、事前面接、契約を通して過去、現在、将来を話し合う取り組みをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ施設生活でも、本人に心の負担がかからないように考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がどこまでできるのか、やりすぎないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が必要な時は、施設だけで対処しようと考えず、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族をお願いしていることが多いが、交流が保たれるように支援している。	家族から入居以前の付き合いや暮らしについて情報を収集し、馴染みの人に会ったり、行きつけの店(美容院等)にも出かけるよう、家族の協力を得ながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わりを持てるように、職員が間に入り配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、継続的な関わりを必要としている利用者や家族はいないが、いつでも相談にのれる事を退居される際、説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	すべての思いをかなえることができない現状ではあるが、できる限り本人の気持ちを考えるプランづくりに取り組んでいる。	利用者の方一人ひとりが、どんなふうに暮らしたいか、個々の思いや意向について、日々の生活の中で、さりげなく関わりながら把握するようにしており、センター方式のアセスメントシートに記載し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞いたりよみとり、介護につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを行いながら、生活の変化が分かる工夫をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者の方から十分に情報提供していただけるよう話し合い、介護計画につなげている。	ケアプランは、6か月ごとに定期的に見直すと共に、変化が見られた場合は、随時変更を行っている。利用者ごとに決められた担当者が、支援内容を見直すための「支援のまとめ」を行い、それをモニタリングやアセスメントに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行いながら、生活の変化がわかる工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況を考え、その他のサービスを提案はしているが、実践には至ったことはない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人や家族からの了承をいただいた医師に依頼しており、定期的な受診、必要時や隔週にて往診に来ていただいている。また、総合病院とも連携し、適切な医療を受けている。	希望されるかかりつけ医への受診や定期的な往診を受けることができるよう体制を整えている。入院必要時等は、協力医療機関等と連携した対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携は取得していないものの、入居者に変化があれば、その都度、連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会へ行き、状況を把握し、主治医、家族と相談しながら早期退院のための相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明時に、家族と話し合いの場をつくり、説明を行っている。また、終末期には家族、主治医との話し合いの場を多くつくり、対応している。	地域の医療機関と医療連携体制を整えており、看取りを行うことができる体制がある。その際は、事業所ができる範囲について、家族等に十分に説明を行い、同意を得たうえで対応するよう努めている。実際の終末期を迎えた際の支援は常に、家族の意向に添えるよう、家族、主治医、事業所が話し合いを重ねながら対応するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、職員と話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	カンファレンスにて災害時の話し合いをしているも、現在、実践が伴っていない。	昼間想定 of 防火訓練は実施できているが、夜間を想定した防火訓練の実施には至っていない。また、地域との連携体制をつくるまでには至っていない。	消防署や地域消防団との連携体制づくりや、夜間を想定した防火訓練の実施への取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。	個々の人格尊重を重視し、プライドを傷つけることにつながるような言葉かけは行わないよう、職員間で徹底し配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動、言葉、他の入居者との会話を観察し、何を望んでいるかを感じとり、自己決定し納得していただけるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアの重要性を職員間で話し合い、支援の取り組みを可能な限り行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が可能な方には、衣服の選択をいただいている。理美容に関しても、本人の希望に添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理はよく手伝っていただいている。配膳等も自主的に行っていただいている。可能な限り、食べたい時に食べていただく支援にも取り組んでいる。	利用者のできる力が活かせるよう、料理の下ごしらえや調理、配膳下膳等を、利用者、職員と一緒にしている。また、食事時も利用者、職員と一緒に食事を取るようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はおおよそのカロリー計算をしている。水分量は記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの実施をしている。できている方でも仕上げ磨きを手伝うなど、抵抗のない限り清潔に努めている。義歯の方は、夕食後、もしくは就寝前に預かり、洗浄剤につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況、声かけ等には十分な配慮を心がけている。羞恥心や自尊心を第一に考えた支援が職員間で行えている。	排泄の声かけは自尊心を傷つけないよう配慮している。入居時にオムツを使用しているも、排泄支援を工夫し、尿パットや下着使用等に変更できている。現在オムツ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品を多く摂取していただいたり、便秘時には主治医の指示のもと、必要に応じて薬で対応している。また、可能な限り本人の羞恥心に配慮しつつ排便確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事以外での曜日指定は行っていない。希望があれば、入浴していただいている。夜間入浴は職員の配置ができず行っていない。	行事以外のほぼ毎日、午後(13:30~17:00)の時間帯に入浴できる体制がある。夜間入浴は行っていないが、ホットパックを活用し、暖かく眠れるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動量をできるだけ増やし、夜間、良眠していただけるよう支援している。中には昼寝が必要な方もいるが、起きている際には、できるだけ何らかの活動を行っていたいっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての目的、用法、用量を把握し、医師の指示どおりに服薬できるよう支援している。症状に変化がみられた場合は、早期に医師へ報告し対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を、生活歴や日々の会話の中から引き出し、支援を行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い出しでは、個々に声かけし、外出を積極的に行っている。要望に応じて、散歩等もしている。	日常的な外出としては、ドライブや大型スーパーに、買い物に出かけている。広い店の中を、買い物をしながら歩くことで、運動にもなっている。また、外食に出かける機会も設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があり、家族の了承が得られる方に所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には、出でただけるよう支援している。本人からの電話は要望があれば、家族の協力を得て、電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾品を変えながら、季節感を出している。共有スペースにあるテレビ音量の調整を気遣うほか、眩しい場所には、レースのカーテンで対応している。	食堂、リビング全体が広くゆったりしており、利用者の方が、それぞれ好みの場所で、くつろげる空間がある。洗面台の高さを変えることができ、車椅子の方にも使いやすい配慮がなされている。壁には、季節の飾りや楽しそうな行事の写真等が飾られている。トイレもプライバシーに配慮された所に設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや家具の配置を考慮した空間づくりをし、思いおもいに過ごせるよう工夫している。		

ホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物を持って来ていただけるよう、家族に協力をお願いしている。	居室入口には、利用者の好みを伺って、職員が手作りした様々な彩りの暖簾がかかっており、手作りのネームボードも飾られている。居室には備え付けのベッドがあり、利用者の方が自宅で使用していた家具や思い出の写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方が混乱するような物があつた場合は、物品などを工夫し混乱がなくなるよう支援を行っている。		